

様式 2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP 公開 (可 ・ 否)

区 分	1.森づくり <u>4.森と暮らし</u>	2.森の恵み 5.森の文化財	3.森と技 6.森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 信仰	(ふりがな) しんこう	
地域独特の呼び方	—		
タイトル	たいまつあげ		
伝承地域	川内村上川内字町分		
由 来	<small>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられたか)</small> 麓山神社はかつて麓山権現とも呼ばれ、麓山の山頂に鎮座している。この山はかつて女人禁制とされた。当社の祭礼は旧暦 9 月 27 日であったが、現在は新暦 11 月 1 日に変更されている。また麓山では盆の 15 日に松明を焚く火祭が行なわれている。		
内 容	<small>(内容とともに、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</small> 麓山神社の祭礼 旧暦 9 月 26 日の宵、神職宅に隣接する籠り堂に氏子の男性が各家から一人集まる。食事の支度は男手で行ない、夜には粳の粉で作った塩餅を萱の箸を使って食べた。その晩は堂内にごろ寝し、翌 27 日にワラミゴで作った前掛けをかけ、2~3センチメートルの長さに切った竹に紐を通したものを首にかけて麓山神社に参拝する。途中、杉の木ので履物を脱いで裸足になって山に登った。若いものが参加する祭りであった。この神社はいくさの神 (戦時中)、狩猟の神とされている。 盆の 15 日には子どもたちによる「火祭」が行なわれている。麓山の中腹にあるジャグと呼ばれる地肌がむき出しになった場所で、隔年ごとに「山」と「上」の文字を松明の火文字で書く。この祭りは害虫を送った虫送りの行事の名残りだとも、お盆様を迎えるために火を焚くとも、水害がないよう山崩れがないように祈願するために焚くなどとも伝えられている。かつては藁小屋をたて、そこで餅を焼いて食べ、そのあとで小屋に火をつけて燃した。今は逆で、作った小屋に火をつけてから松明に火をつけるようになった。小屋は麦藁で作ったものであるが、現在は稲藁を使う。 久保地区でも前山に火文字を書いたという。		
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	(出典)『川内村史 3 民俗篇』(昭和 63 年 8 月 川内村		

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）		※顔写真ありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。（貼りつけずに名前がわかるようにして同封ください。）
	性別・年齢	男 ・ 女	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成 年生	
	住所・電話	〒 電話	
団体	職業		
	団体名（ふりがな）		
	代表者氏名（ふりがな）		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先		電話

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード
<p>麓山の火祭り(麓山神社)</p>  <p>(川内村教育委員会)</p>

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを1部ご恵与ください。